

講演論文集の原稿タイトル見本と原稿の書き方 —論文タイトルは14ポイントBold(太字)MSゴシック—

○能開 花子，教育 一郎（職業能力開発総合大学校），研究 二郎（職業未来技研），
発明 三郎（ものづくり製作所）

1. まえがき

第1章では、研究の背景、目的、意義を明確に示してください。研究を行うに至った社会情勢や関連する先行研究を引用しながら、研究の背景を説明してください。上述した背景のもとで、本研究がどのような目的を持ち、どのような意義を有するのか、何を新たに示すのか、どのような方法で研究の妥当性を明らかにするのか、を明確に主張してください。

2. 全般事項

これは職業能力開発研究発表講演会に投稿する論文のテンプレートです。職業能力開発研究発表講演会は写真製版によって印刷されます。仕上げは、モノクロとなります。このテンプレートの書式に従い作成してください。テンプレートのフォーマットを変えないでください。例えば、書ききれない等の理由によって、字を小さくしたり、行間を狭めたり、ヘッダーやフッターの位置を変えたりしないようにしてください。2ページ目の半分近くが空白になるような論文構成は避けてください。できる限り2ページちょうどに収まるようにしてください。

記述言語は日本語を基本とします。和文フォントは、明朝系を使用してください。数字は原則、半角でTimes系フォントを使用してください。単位は原則としてSI単位を使用してください。点は（，）を丸は（.）を使用してください。

3. テキストスタイルとフォーマット

3.1. 表題

表題は1ページ、1行目に書いてください。活字は、14ポイントのゴシック系、太字（Bold）を使用してください。表題はセンタリングしてください。2行以上になっても構いません。表題に副題をつける場合には、和文表題の下に、表題と同じ活字を用いて書いてください。

3.2. 著者名

著者名は、12ポイントのゴシック系を使用してください。名字と名前の間は半角開けてください。著者名はセンタリングしてください。著者が複数で1行に収まらな

いときは、2行以上になっても構いません。会場で発表される方の氏名の前に○を記してください。

所属先機関名をカッコ内に書き入れることとし、役職や学年等は不要です。特段の事情がある場合を除き、部署名も不要です。

誤) 職業 花子 (ABC技研 技術部長)

正) 職業 花子 (ABC技研)

3.3. 本文

本文は2段組で書いてください。活字の大きさは、9ポイント、明朝系を使用してください。

大見出し（「1. 試料作製」、「2. 測定及び結果」など）は12ポイントのゴシック系の活字を使用してください。大見出しの上下は、本文の活字の大きさ（9ポイント）で1行あけてください。ただし、大見出しが、そのページの上端に配置された場合は大見出しの下だけ、下端に配置された場合は大見出しの上だけを1行あけてください。

中・小見出し（「4.1ゼーベック係数」「4.1.1 コンプトン効果」など）は本文と同じ大きさ（9ポイント）のゴシック系の活字を使用してください。中小見出しの上は、本文の活字の大きさ（9ポイント）で1行あけてください。ただし、中小見出しがそのページの上端に配置された場合はあけるひつようはありません。見出し番号はTimes系で書いてください。

3.4. 図表および式の書き方

3.4.1. 図表の書き方

図・表のタイトルは和文で書いてください。図番号は、図1、図2・・・を使用して下さい。表番号は、表1、表2・・・を使用して下さい。数字は半角にしてください。表、図のタイトルは9ポイントの明朝系の活字を使用してください。図のタイトルは図の下に、表のタイトルは表の上に必ず付け、タイトルはセンタリングしてください。読者が「図表中の文字や数値が小さかったりして読めない」ということがないように注意してください。

図および表には必ず順番に番号を振り、タイトルを付け、これらを必ず本文中で説明してください。（例）図1は、電流に対するリアクタンス変化を計算した結果である。この図から、提案するリアクタンス計算法は、従来法と比べて、低電流時のリアクタンスの算出精度を改

善できることが確認される。

図・表の上下は、本文の活字の大きさを約1行分のスペースをあけてください。ただし、図・表が、そのページの上端に配置された場合は図・表の下だけ、下端に配

図1 電流に対するリアクタンスの計算結果

置された場合は、図・表の上だけを1行あけてください。

1. 数式の書き方

数式についても順番に番号(カッコつき半角数字)を振り、本文中に変数の定義も示して下さい。(例)式(1)は、円の面積の方程式である。ここで、 r は円の半径を表す。

$$A = \pi r^2 \quad (1)$$

数式の上下は、本文の活字の大きさを1行あけてください。ただし、数式がそのページの上端に配置された場合は数式の下だけ、下端に配置された場合は数式の上だけ1行あけてください。数式の始まりは原則として2文字下げてください。長い式の時には、下げる必要はありません。また、数式の番号は原則、行末につけてください。

数字は原則としてアラビア数字を使用してください。数式、変数は本文中、式中含め、一般にイタリック体で表します。文章中に数式を挿入する場合は x/a , $a/(b+c)$ のようになしてください。ただし、演算記号(log, ln, sin, exp, lim,, d(微分), Re, Imなど), 虚数単位(i, jなど)は立体活字(ローマン体:傾かず垂直に正立した書体)とってください。

2. 参考文献

参考文献の見出し「参考文献」は9ポイントのゴシック系の活字を使用してください。参考文献の文字の大きさは8ポイントを使用してください。日本語は明朝系のフォントを、英語はTimes系のフォントを使用してください。本文中の文献番号は、1)や2)を“上付き”で書き込

んでください。文章中で使用する場合は、参考文献[1]により、などとしてください。参考文献の見出しの上は、本文の活字の大きさ(9ポイント)で1行あけてください。ただし、参考文献がそのページの上端に配置された場合は1行あける必要はありません。文献の番号は必ず本文に登場する順番となるように振ってください。本文中で引用されない文献を記載しないでください。

参考文献は、以下のように書いてください。著者名は全員を書き省略してはいけません。和雑誌、日本語論文の場合、標題は「」で囲み、外国雑誌、英語論文の場合、標題は””で囲んで下さい。

[雑誌] 著者名: “標題”, 雑誌名(斜体), 巻, 号, pp. を付けて始め-終りのページ(年). 例[3]

[著書, 編書] 著者名: “書名”, 編者名, 発行所, 発行都市名(発行年).

[著書の一部を引用する場合] 著者名: “標題”, 書名, 編者名, 章番号またはpp. を付けて始め-終りのページ, 発行所, 発行都市名(発行年). 例[2]

[国際会議] 著者名, “標題”, 会議名, 論文番号等, pp. を付けて始め-終りのページ, 開催都市名, 国名(年).

[国内大会, 研究会論文集] 著者名, “標題”, 学会論文集名, 論文番号等, pp. を付けて始め-終りのページ(年). 例[1]

[Webページ]

著者名, Webページタイトル, サイト管理者名等, URL, 文書年月または参照年月日.

2. あとがき

最後の章では、必ず本研究によって新規に得られた結論をまとめてください。

この章に、今後の課題や謝辞を含めても構いません。

参考文献は、最後の章の後にまとめてリストアップしてください。

参考文献

- [1] 佐藤一郎, 鈴木次郎, 高橋三郎: 「低次コントローラによる二慣性系の共振抑制制御」平成23年機械制御学会全国大会講演論文集, Vol. 2, pp. 123-124 (2010).
- [2] 田中太郎: 「応用制御工学」, 制御出版社, 東京, pp. 56-57 (2012).
- [3] A. Smith, B. Johnson, and C. Williams: “Parameter Measurements for permanent magnet synchronous machines”, *IEEE Transactions on Industry Applications*, Vol. 43, No. 1, pp. 47-56 (2007).